



吸入ばく露については、一般環境大気中の濃度についてみると、予測最大ばく露濃度は0.053 µg/m<sup>3</sup>程度であり、無毒性量等0.64 mg/m<sup>3</sup>と予測最大ばく露濃度から、同様にして求めたMOEは1,200となった。従って、本物質の一般環境大気の吸入ばく露による健康リスクについては、現時点では作業は必要ないと考えられる。

有害性の知見				ばく露評価		リスク評価の結果			判定
ばく露経路	リスク評価の指標	動物	影響評価指標(エンドポイント)	ばく露の媒体	予測最大ばく露量及び濃度	MOE			
経口	無毒性量等 4 mg/kg/day	ラット	肝臓及び腎臓重量の増加など	飲料水	— µg/kg/day	MOE	—	×	○
				淡水	< 0.0004 µg/kg/day	MOE	> 1,000,000	○	
吸入	無毒性量等 0.64 mg/m <sup>3</sup>	マウス	嗅上皮の萎縮及び壊死など	一般環境大気	0.053 µg/m <sup>3</sup>	MOE	1,200	○	○
				室内空気	— µg/m <sup>3</sup>	MOE	—	×	×

#### 4. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における72時間EC<sub>50</sub> 5,090 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における48時間EC<sub>50</sub> 2,620 µg/L、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の96時間LC<sub>50</sub> 7,280 µg/Lが信頼できる知見として得られたためアセスメント係数100を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度(PNEC)26 µg/Lが得られた。慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における72時間NOEC 300 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における21日間NOEC 401 µg/Lが信頼できる知見として得られたためアセスメント係数100を適用し、慢性毒性値に基づくPNEC値3 µg/Lが得られた。本物質のPNECは、藻類の慢性毒性値から得られた3 µg/Lを採用した。

PEC/PNEC比は淡水域、海水域ともに0.003未満となるため、現時点では作業は必要ないと考えられる。

有害性評価 (PNECの根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	ばく露評価		PEC/ PNEC比	評価 結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
藻類	慢性	NOEC 生長阻害	100	3	淡水	< 0.01	< 0.003	○
					海水	< 0.01		

#### 5. 結論

	結論		判定
健康リスク	経口ばく露	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○
	吸入ばく露	一般環境大気では現時点では作業は必要ないと考えられる。	○
生態リスク	現時点では作業は必要ないと考えられる。		○

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない